

偶 感

「国破れて山河あり，城春にして草木深し」
終戦を三共の青島出張所で迎えられた上井前理事が，現地の残務整理を終え，昭和21年日本へ引揚げてこられた時，緑の風にそよぐ田植後の水田を見て，最初に頭に浮んだのが，杜甫の詠んだ「春望」のこの一節だったという。今，国栄えてこの日本に何が残ろうとするのか。飽食の時代しか知らない人々の思想に一抹の危惧を覚えざるを得ない。

農業に課せられた大きな命題は，もちろん安価な農作物の安定的供給である。農業技術の進歩により，日本では食糧難時代を克服し，自給率は別にしても供給過剰時代を迎えた。しかし一方では世界人口は急増し，今や50億の時代を迎え，さらに増加傾向にある。しかも生産性の高い欧米，日本ではむしろ人口の減少に悩むというアンバランスな人口動態を示している。

経済大国日本はあり余る外貨にまかせて，世界中から食糧を買いまくる飽食生活を満喫している。さらに外貨べらしのため日本農業を切捨てても，外国からの食糧輸入を増加するよう要求されている現状である。これは世界経済活動の一環だから仕方がないとかたづけてしまえばそれまでだが，こと食糧に関しては人間が生存するための根源であるだけに，現在の食糧分配の世界的不公平に対し，一種の後めたさと一抹の不安を覚えるのは食糧難時代を経験し，食べ物のある意味では神聖視する世代の取越し苦労であろうか。コメは日本民族の命を守り続け，文化をはぐくんできた。「豊葦原瑞穂国」コメであればこそ日本だったことを忘れないで欲しいものだ。

〔三共株式会社 農業企画部長 高橋省吾〕
〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事〕

目 次 (第21巻第6号)

巻 頭 言	
偶 感	1
＜財）日本植物調節剤研究協会理事 三共株式会社 農業企画部長 高橋省吾＞	
畑雑草の発生予測	2
＜農業研究センター耕地利用部 高柳 繁＞	
1. 発生予測モデルの基本的な考え方	3
2. 二つの部分モデルの展開	3
3. 土壌中の活力種子数の推定	4
4. 圃場での土壌のサンプリング法	7
5. む す び	
—実用化へのアプローチ—	10
日本ナシの樹勢と生育調節剤	13
＜鳥取大学農学部教授 林 真二＞	
1. 樹勢のはなし	13
2. 棚作りのはなし	14
3. ナシの7年周期	15
4. 栽培管理とホルモン	15
5. エセフォンについて	16
6. ジベレリンについて	18
む す び	18
昭和61年度秋冬作野菜・花き関係除 草剤・生育調節剤試験成績概要	20
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部＞	
民間研究所めぐり	30
クミアイ化学工業㈱生物科学研究所 植調協会だより	31
人 事 往 来	31